

第3回 実践研修会開催

全国産業資源循環連合会 女性部協議会主催
第3回実践研修会@鹿児島

日時 令和7年4月16日(水)～4月17日(木)
場所 鹿児島県曽於郡大崎町、霧島市
参加者 全国女性部会員31名
(愛知県協会からは女性部 東久保真弓会長が参加)

全国産業資源循環連合会女性部協議会主催の「実践研修会」に、女性部の東久保真弓会長が参加し、鹿児島県大崎町と霧島市を訪れました。

鹿児島県大崎町は、16回もリサイクル率日本一を誇る町であり、2021年には、資源循環を中心としたSDGsの取り組みを加速させるために、地元企業とともに「一般社団法人 大崎町SDGs推進協議会」を設立した先進自治体です。

大崎町には、もともとごみ焼却施設がなく、ごみはすべて埋め立て処分していました。しかし、当初計画よりも多くのごみが排出され、埋立処分場の残余年数がひっ迫します。そこで、処分場の延命化を目的に、平成10年から3品目の分別回収を開始し、現在では27品目を分別回収しています。住民と行政、企業が高い意識を持ち、信頼関係を構築することで、“混ぜればゴミ、分ければ資源”をテーマに分別回収への取り組みを進めた結果、最終処分量は平成11年度の3,763トンから令和4年度には659トンまで激減しました。令和5年度のリサイクル率は83%であり、全国平均の約20%を大きく上回っています。

今回の研修では、地域・行政との資源循環の仕組みづくり・コミュニティづくりを座学、体験を通して学んできました。

大崎町SDGs協議会の高橋さんの案内で、まずは、大崎町がリサイクルに取り組むきっかけとなった「最終処分場（曽於南部清掃センター）」を訪れました。次に、「大崎有機工場」を訪問し、生ごみと剪定くずを混ぜ、たい肥にな



るまでのフローをご説明いただきました。最後に、食用油をバイオディーゼル燃料にリサイクルする「そおりサイクルセンター」を訪問しました。

2日目は、霧島市に移動し、自然と共生しながら新しいライフスタイルを提案する場所として注目されている「Obama village」を訪問しました。地域循環共生圏（ローカルSDGs）、排水処理や環境配慮型のインフラモデル、廃棄されていた資源の再価値化、地域内教育や環境学習の場としての機能など、様々な資源循環づくりのアイデアを知ることができました。

今回の実践研修会を通して、同じ業界の方々との交流を通じて、新たな気づきや刺激を受けることができました。また、資源循環型のモデル都市、サーキュラーヴィレッジ構想を掲げ、社会課題解決に挑み、“リサイクルの町から世界の未来をつくる町へ”を形にするためチャレンジを続けている大崎町の取り組みを、女性部はもちろん、愛知県産業資源循環協会会員の皆さんとも情報を共有させていただき役立てたいと思っています。



大崎町の埋め立て処理施設にて、SDGs推進協議会の方が説明